

資料－2 市民アンケート調査結果

(1) 市民アンケート調査実施概要

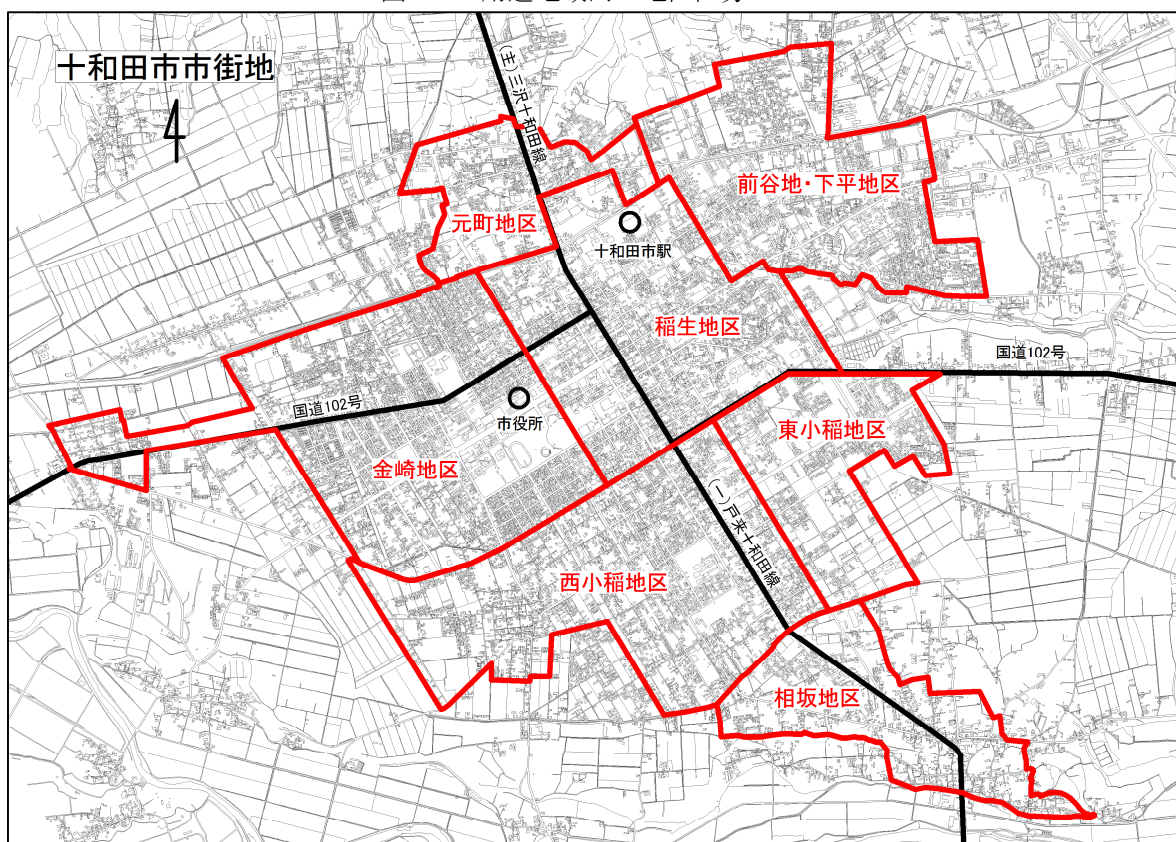
- ①実施年月日：平成21年8月18日（火）～平成21年8月31日（月）
- ②配布・回収方法：郵送
- ③配布票数：2000票
- ④回収票数：864票（回収率：43.2%）

(2) 集計にあたっての地区区分

市民アンケート調査集計結果は、用途地域内の7地区、旧十和田市用途地域外地区及び旧十和田湖町地区の9つの地区区分単位でまとめます。

- | | |
|-----------|---------------|
| ①元町地区 | ⑥東小稲地区 |
| ②前谷地・下平地区 | ⑦相坂地区 |
| ③稲生地区 | ⑧旧十和田市用途地域外地区 |
| ④金崎地区 | ⑨旧十和田湖町地区 |
| ⑤西小稲地区 | |

図 2-1 用途地域内の地区区分



(3) 評価の方法

住民意向調査集計結果から地区別に、以前の居住地、最寄品・買回品の主な買い物場所、飲食に利用する場所、通勤先、居住環境、市の将来イメージ、市のまちづくりで重要なこと、まちづくりに重要な地区、居住地区の将来イメージ、地区のまちづくりで重要なこと、市民のまちづくり参画などの項目にそって、意向概要のまとめとその評価を行います。

本調査では、アンケート集計結果の割合が、原則として、10%以上で上位3位までのものを対象として抜粋し、評価しています。

アンケート集計結果の割合は、地区ごとの回収票総数を母数として算出しています。このため複数回答の設問では、割合の合計が100%を超えるものがあります。

(4) 地区別集計結果概要と評価

①-1 元町地区

項目	集計結果概要	評価								
以前の居住地	①現在地に生来居住→10.3% ②元町地区→6.9% ③元町地区を除く市内→41.4% (相坂地区、用途地域外共に→13.8%) ④青森県内→27.6% (三沢市 6.9%) ⑤青森県外→13.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・当地区の継続的居住者の割合は、生来居住と地区内転居を合わせ、2割に満たない。(17.2%) ・転居者の従前居住地は、市内(41.4%)及び市外(41.4%)が半々である。 ・市内居住では、相坂地区及び旧十和田市用途地域外地区が上位を占める。 ・転入者が多くコミュニティ形成が課題になる。 								
最寄品の主な買い物場所	<table border="1"> <thead> <tr> <th>最寄店</th> <th>郊外大型店</th> <th>中心街店</th> <th>市外店</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>89.7%</td> <td>41.4%</td> <td>13.8%</td> <td>10.3%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・利用交通手段：自家用車→82.8% 	最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店	89.7%	41.4%	13.8%	10.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・食料品等最寄品は、最寄店利用が多く 89.7%、郊外大型店利用は 41.4%、中心街店利用は 13.8%である。市外店利用は 10.3%と中心街店利用に迫る。 ・交通手段は8割強が自家用車利用である。 ・車利用に対応した魅力ある店舗への転換あるいは導入など、中心市街地の再生が課題である。
最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店							
89.7%	41.4%	13.8%	10.3%							
買回品の主な買い物場所	<table border="1"> <thead> <tr> <th>最寄店</th> <th>郊外大型店</th> <th>中心街店</th> <th>市外店</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>34.5%</td> <td>41.4%</td> <td>3.4%</td> <td>106.9%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・利用交通手段：自家用車→93.1% 	最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店	34.5%	41.4%	3.4%	106.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・服、ファッション品等買回品は、市外店利用が 106.9%、郊外大型店利用が 41.4%あるのに対し、中心街店利用は 3.4%にすぎない。 ・交通手段はほとんどが自家用車利用である。 ・車利用に対応した魅力ある店舗への転換あるいは導入など、中心市街地の再生が課題である。
最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店							
34.5%	41.4%	3.4%	106.9%							
飲食に利用する場所	<table border="1"> <thead> <tr> <th>稲生地区</th> <th>相坂地区</th> <th>用途地域外</th> <th>市外</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>37.9%</td> <td>24.1%</td> <td>31.0%</td> <td>62.1%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・利用交通手段：自家用車→82.8% 	稲生地区	相坂地区	用途地域外	市外	37.9%	24.1%	31.0%	62.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食に利用する場所は、市外が 62.1%、相坂地区や用途地域外等の郊外が 55.1%であるのに対し、中心街のある稲生地区は 37.9%と利用率が低めである。 ・車利用に対応した魅力ある店舗・業種への転換あるいは導入など、中心市街地の再生が課題である。
稲生地区	相坂地区	用途地域外	市外							
37.9%	24.1%	31.0%	62.1%							
通勤先	①通勤先が市内→62.1% (市外→37.9%) ②稲生地区、用途外共に→17.2%、金崎地区→10.3% ③利用交通手段→自家用車 86.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・市内が通勤先は 62.1%で、稲生地区、用途地域外、金崎地区が主である。市外通勤は 37.9%である。 								
居住環境等の「良いところ」	①自然・歴史環境など→179.3% ・緑豊かな山や自然→58.6% ・空気がきれい→34.5% ・親族や知人が多い→31.0% ②生活環境など→155.2% ・日常の買い物が便利→44.8% ・公園・広場が整備されている→27.6% ・病院、医院が多い→24.1% ③防犯・防災・救急など→65.5% ・災害が少ない→44.8% ・治安が良い→13.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・自然・歴史環境や生活環境、防犯・防災・救急などに対する評価が高い。 ・自然・歴史環境では「緑豊かな山や自然」に対する評価が高い。 ・生活環境では「日常の買い物の利便性」が評価されている。 ・防犯・防災・救急などでは、災害が少ない点が評価されている。これは他地区でも共通して評価されている点である。 ・これら指摘された良い点を今後も保全・維持しながら、まちづくりを進めていくことが必要である。 								
居住環境等の「良くないところ」	①交通など→127.6% ・鉄道が不便である→41.4% ・バス交通が不便である→34.5% ・他都市への幹線道路が不便である→31.0% ②生活環境など→100.0% ・スポーツ施設がない→24.1% ・日常の買い物が不便→13.8% ・下水道が整備されていない→13.8% ・図書館や文化施設が少ない→13.8% ③職場など→62.1% ・就職の機会が少ない→44.8% ・通勤のための交通が不便である→13.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・交通や生活環境、職場などに対する評価が低い。 ・交通では、鉄道・バス等の公共交通機関の不便さに不満が高い。また他都市と連絡する広域幹線道路の不便さにも不満が高く、改善が課題となっている。 ・生活環境面では、運動施設の整備不足に対する不満が高く、下水道の未整備や図書館・文化施設のサービス水準の低さに対する不満が多く、改善が課題となっている。日常の買い物の利便性が評価される反面、不便さも指摘され、サービス偏向の是正が課題である。 ・職場などに関しては、総合的な就業の機会拡大への取り組みが課題となる。 								
十和田市の将来都市像	①安全、快適、住みやすい住宅中心都市→44.8% ②賑わいのある商業が展開する都市→41.4% ③保健、福祉が充実した都市→34.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・保健、福祉が充実し、商業地が賑わう、安全で快適な、住みやすい住宅地が中心となる都市形成が、十和田市の将来都市像として考えられている。 								
十和田市のまちづくりで重要なこと	①生活関連施設など→65.5% ・病院など医療施設を整備する→24.1% ・教育施設を整備する→10.3% ・幼児・学童の保育施設を充実する→10.3% ②就業・産業など→51.7% ・市内に企業(就業の場)を誘致する→27.6% ・観光産業を育成する→10.3% ③交通など→37.9% ・バス交通を充実する→17.2% ・生活道路を整備する→13.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・市全体のまちづくりに対しては、医療施設、教育施設、保育施設等の医療・社会福祉や教育関連施設の充実が重要と認識していることが伺える。 ・また就業の場の確保や、公共交通機関の利便性向上及び生活道路の整備など日常生活における足の確保の重要性についても認識していることが伺える。 ・今後、これらの医療・社会福祉や教育関連施設や公共交通機関、生活道路といった都市基盤施設等をバランス良く充実させ、安全・安心、利便性の高い都市環境を形成していくことが課題である。 								

①-2 元町地区

項目	集計結果概要	評価
まちづくりに重要な地区	①十和田駅周辺→62.1% ②官庁街通り及びその周辺→55.2% ③アーケード商店街（稲生町周辺）→41.4%	・市の玄関口、顔となる十和田駅周辺地区の再構築、アーケード商店街の活性化、官庁街通りの特徴をまちづくりに活かすことが重要である。
居住地区の将来像	①安全、快適な住宅中心の地区→75.9% ②保健・福祉が充実した地区→27.6% ③賑わいのある商業が展開する地区→24.1%	・安全で快適な、住みやすい住宅地形成を軸として、保健、福祉が充実し、賑わう商業地がある地区形成が、地区の将来像として考えられている。
居住地区のまちづくりで重要な視点	①生活関連施設など→69.0% ・公園、広場を整備する→24.1% ・病院など医療施設を整備する→17.2% ・下水道を整備する→10.3% ②交通など→37.9% ・生活道路を整備する→24.1% ・バス交通を充実する→13.8% ③住宅など→34.5% ・建物や街並みの景観を良くする→17.2% ・現在の住宅地を再整備する→10.3%	・居住地区のまちづくりでは、公園・広場、生活道路、病院、下水道等の都市基盤施設や医療施設整備の重要性を認識していることが伺える。 ・またバスなどの公共交通機関の利便性確保についての重要性を認識していることも伺える。 ・他地区には見られないことで、建物・街並み景観、住宅地の再整備に対する必要性の認識があることが注目される。 ・今後、これら都市基盤施設や医療施設をバランス良く充実させ、安全・安心、利便性の高い都市環境を形成していくことが課題である。 ・また今後地区住民の参画を図りながら地区の課題を精査し、景観形成や住宅地再整備の検討を行い、諸制度を活用してまちづくりを実現していくことも考えられる。
市民のまちづくり参画	①市が中心、市民の合意を得て進める→48.3% ②市民と市が協働で進める→34.5% ③市民が中心、市が必要な部分を支援→13.8%	・まちづくりへの市民参加に対しては、半数の人は市が中心となり、市民の合意を得て進めることを望んでいる。 ・市民と市が協働で進めるとの意見は3割強あり、今後の市民の活力によるまちづくりに期待が持てそうである。 ・今後市民参加によるまちづくりが順調かつ活発に進められる上で基となる支援制度や体制づくりが課題である。

②-1 前谷地・下平地区

項目	集計結果概要	評価								
以前の居住地	<ul style="list-style-type: none"> ①現在地に生来居住→6.1% ②前谷地・下平地区→8.1% ③前谷地・下平地区を除く市内→44.4% (稲生地区→12.1%、金崎地区、用途外共に→9.1%) ④青森県内→28.3% (三沢市、七戸町 5.1%) ⑤青森県外→11.1% 	<ul style="list-style-type: none"> ・当地区の継続的居住者の割合は、生来居住と地区内転居を合わせ、2割に満たない。(14.2%) ・転居者の従前居住地は、市内(44.4%)が市外(39.4%)を上回る。 ・地区内転居の従前居住地は、稲生地区、金崎地区、旧十和田市用途地域外地区が上位を占める。 ・転入者が多くコミュニティ形成が課題になる。 								
最寄品の主な買い物場所	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>最寄店</td> <td>郊外大型店</td> <td>中心街店</td> <td>市外店</td> </tr> <tr> <td>88.9%</td> <td>48.5%</td> <td>11.1%</td> <td>17.2%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・最寄品の利用交通手段：自家用車→89.9% 	最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店	88.9%	48.5%	11.1%	17.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・食料品等最寄品は、最寄り店利用が多く88.9%、郊外大型店利用は48.5%、中心街店利用は11.1%である。市外店利用は17.2%あり、中心街店を上回る。 ・交通手段は9割弱が自家用車利用である。 ・車利用に対応した魅力ある店舗への転換あるいは導入など、中心市街地の再生が課題である。
最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店							
88.9%	48.5%	11.1%	17.2%							
買回品の主な買い物場所	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>最寄店</td> <td>郊外大型店</td> <td>中心街店</td> <td>市外店</td> </tr> <tr> <td>28.3%</td> <td>46.5%</td> <td>11.1%</td> <td>87.9%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・買回品の利用交通手段：自家用車→90.9% 	最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店	28.3%	46.5%	11.1%	87.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・服、ファッション品等買回品は、市外店利用が87.9%、郊外大型店利用が46.5%あるのに対し、中心街店利用は11.1%にすぎない。 ・交通手段はほとんどが自家用車利用である。 ・車利用に対応した魅力ある店舗への転換あるいは導入など、中心市街地の再生が課題である。
最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店							
28.3%	46.5%	11.1%	87.9%							
飲食に利用する場所	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>稲生地区</td> <td>相坂地区</td> <td>用途地域外</td> <td>市外</td> </tr> <tr> <td>20.2%</td> <td>10.1%</td> <td>15.2%</td> <td>64.6%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・利用交通手段：自家用車→83.8% 	稲生地区	相坂地区	用途地域外	市外	20.2%	10.1%	15.2%	64.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食に利用する場所は、市外が64.6%、相坂地区や用途地域外等の郊外が25.3%あるのに対し、中心街のある稲生地区は20.2%と利用率が低めである。 ・車利用に対応した魅力ある店舗・業種への転換あるいは導入など、中心市街地の再生が課題である。
稲生地区	相坂地区	用途地域外	市外							
20.2%	10.1%	15.2%	64.6%							
通勤先	<ul style="list-style-type: none"> ①通勤先が市内→64.6% (市外→53.5%) ②稲生地区→21.2%、前谷地・下平地区→18.2% ③利用交通手段→自家用車 75.8% 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内が通勤先は64.6%で、稲生地区、前谷地・下平地区が主である。市外通勤は53.5%である。 ・交通手段は8割弱が自家用車利用である。 								
居住環境等の「良いところ」	<ul style="list-style-type: none"> ①自然・歴史環境など→183.8% <ul style="list-style-type: none"> ・緑豊かな山や自然→56.6% ・空気がきれい→41.4% ・親族や知人が多い→30.3% ②生活環境など→131.3% <ul style="list-style-type: none"> ・日常の買い物が便利→45.5% ・病院、医院が多い→20.2% ・下水道が整備されている→17.2% ③防犯・防災・救急など→93.9% <ul style="list-style-type: none"> ・災害が少ない→59.6% ・治安が良い→24.2% 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然・歴史環境や生活環境、防犯・防災・救急などに対する評価が高い。 ・自然・歴史環境では「緑豊かな山や自然」に対する評価が高い。 ・生活環境では「日常の買い物の利便性」が評価されている。 ・防犯・防災・救急などでは、災害が少ない点が評価されている。これは他地区でも共通して評価されている点である。 ・これら指摘された良い点を今後も保全・維持しながら、まちづくりを進めていくことが必要である。 								
居住環境等の「良くないところ」	<ul style="list-style-type: none"> ①交通など→123.2% <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道が不便である→43.4% ・バス交通が不便である→34.3% ・他都市への幹線道路が不便である→24.2% ②生活環境など→120.2% <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設がない→26.3% ・図書館や文化施設が少ない→18.2% ・日常の買い物が不便、公園、広場が未整備→16.2% ③職場など→59.6% <ul style="list-style-type: none"> ・就職の機会が少ない→45.5% ・通勤のための交通が不便である→9.1% 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通や生活環境、職場などに対する評価が低い。 ・交通では、鉄道・バス等の公共交通機関の不便さに不満が高い。また他都市と連絡する広域幹線道路の不便さにも不満が高く、改善が課題となっている。 ・生活環境面では、運動施設の整備不足に対する不満、下水道の未整備や図書館・文化施設のサービス水準の低さに対する不満が多く、改善が課題となっている。日常の買い物の利便性が評価される反面、不便さも指摘され、サービス偏向の是正が課題である。 ・職場などに関しては、総合的な就業の機会拡大への取り組みが課題となる。 								
十和田市の将来都市像	<ul style="list-style-type: none"> ①保健、福祉が充実した都市→56.6% ②自然、歴史伝統を活かした観光都市→39.4% ③賑わいのある商業が展開する都市→34.3% 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健、福祉が充実し、商業地が賑わう、自然、歴史伝統を活かした観光都市の形成が、十和田市の将来都市像として考えられている。 								
十和田市のまちづくりで重要なこと	<ul style="list-style-type: none"> ①生活関連施設など→73.7% <ul style="list-style-type: none"> ・病院など医療施設を整備する→19.2% ・幼児・学童の保育施設を充実する→14.1% ・高齢者の支援施設を充実する→14.1% ②就業・産業など→52.5% <ul style="list-style-type: none"> ・市内に企業(就業の場)を誘致する→31.3% ・観光産業を育成する→10.1% ③買い物など→34.3% <ul style="list-style-type: none"> ・市の中心商業地を充実する→24.2% 	<ul style="list-style-type: none"> ・市全体のまちづくりに対しては、医療施設、教育施設、保育施設、高齢者施設等の医療・社会福祉や教育関連施設の充実が重要と認識していることが伺える。 ・また就業の場の確保と、中心商業地の利便性の向上あるいは活性化の重要性を認識していることが伺える。 ・今後これらの医療・社会福祉などの都市基盤等をバランス良く充実させると共に、中心市街地の活性化を図り、安全・安心、利便性の高い都市環境を形成していくことが課題である。 								

②-2 前谷地・下平地区

項目	集計結果概要	評価
まちづくりに重要な地区	①十和田駅周辺→76.8% ②アーケード商店街（稲生町周辺）→60.6% ③官庁街通り及びその周辺→29.3%	・市の玄関口、顔となる十和田駅周辺地区の再構築、アーケード商店街の活性化、官庁街通りの特徴をまちづくりに活かすことが重要である。
居住地区の将来像	①安全、快適な住宅中心の地区→69.7% ②保健・福祉が充実した地区→43.4% ③自然が豊かな地区→33.3%	・安全で快適な、住みやすい住宅地形成を軸として、保健、福祉が充実し、自然が豊かな地区形成が、地区の将来像として考えられている。
居住地区のまちづくりで重要な視点	①生活関連施設など→70.7% ・公園、広場を整備する→22.2% ・スポーツ施設を整備する→11.1% ・高齢者の支援施設を充実する→10.1% ②交通など→46.5% ・生活道路を整備する→27.3% ・バス交通を充実する→13.1% ③防犯・防災など→40.4% ・防犯対策を充実する→24.2%	・居住地区のまちづくりでは、公園・広場、生活道路、スポーツ、高齢者支援等の都市基盤施設や社会福祉施設整備の重要性を認識していることが伺える。 ・またバスなどの公共交通機関の利便性確保や、街路灯の設置などによる防犯対策に対する重要性を認識していることも伺える。 ・今後、これらの都市基盤施設や社会福祉施設をバランス良く充実させ、安全・安心、利便性の高い都市環境を形成していくことが課題である。
市民のまちづくり参画	①市民と市が協働で進める→39.4% ②市が中心、市民の合意を得て進める→32.3% ③市民が中心、市が必要な部分を支援→18.2%	・市民と市が協働で進めるとの意見は4割強あり、今後のまちづくりでの市民の活力に期待が持てそうである。 ・今後市民参加によるまちづくりが順調かつ活発に進められる上で基となる支援制度や体制づくりが課題である。

③-1 稲生地区

項目	集計結果概要	評価								
以前の居住地	①現在地に生来居住→17.6% ②稲生地区→9.5% ③稲生地区を除く市内→24.3% (前谷地・下平、金崎地区、用途外、旧十和田湖町共に→5.4%) ④青森県内→25.7% ⑤青森県外→21.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・当地区の継続的居住者の割合は、生来居住と地区内転居を合わせ、3割に満たない。(27.1%) ・転居者の従前居住地は、市外(47.3%)が市内を(24.3%)大きく上回る。 ・地区内転居の従前居住地は、前谷地・下平、金崎地区及び旧十和田市用途地域外地区、旧十和田湖町地区が上位を占める。 ・転入者が多くコミュニティの形成が課題になる。 								
最寄品の主な買い物場所	<table border="1"> <thead> <tr> <th>最寄店</th> <th>郊外大型店</th> <th>中心街店</th> <th>市外店</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>86.5%</td> <td>40.5%</td> <td>14.9%</td> <td>13.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・最寄品の利用交通手段：自家用車→85.1%</p>	最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店	86.5%	40.5%	14.9%	13.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・食料品等最寄品は、最寄り店利用が多く86.5%、郊外大型店利用は40.5%、中心街店利用は14.9%である。市外店利用は13.5%あり、中心街店と同程度である。 ・交通手段は8割強が自家用車利用である。 ・車利用に対応した魅力ある店舗への転換あるいは導入など、中心市街地の再生が課題である。
最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店							
86.5%	40.5%	14.9%	13.5%							
買回品の主な買い物場所	<table border="1"> <thead> <tr> <th>最寄店</th> <th>郊外大型店</th> <th>中心街店</th> <th>市外店</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20.3%</td> <td>50.0%</td> <td>13.5%</td> <td>93.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・買回品の利用交通手段：自家用車→87.8%</p>	最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店	20.3%	50.0%	13.5%	93.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・服、ファッション品等買回品は、市外店利用が93.2%、郊外大型店利用が50.0%あるのに対し、中心街店利用は13.5%と低調である。 ・交通手段はほとんどが自家用車利用である。 ・車利用に対応した魅力ある店舗への転換あるいは導入など、中心市街地の再生が課題である。
最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店							
20.3%	50.0%	13.5%	93.2%							
飲食に利用する場所	<table border="1"> <thead> <tr> <th>稲生地区</th> <th>相坂地区</th> <th>用途地域外</th> <th>市外</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>29.7%</td> <td>13.5%</td> <td>21.6%</td> <td>52.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・利用交通手段：自家用車→68.9%</p>	稲生地区	相坂地区	用途地域外	市外	29.7%	13.5%	21.6%	52.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食に利用する場所は、市外が52.7%、相坂地区や用途地域外等の郊外が35.1%である。中心街のある稲生地区は29.7%と利用率が低めである。 ・車利用に対応した魅力ある店舗・業種への転換あるいは導入など、中心市街地の再生が課題である。
稲生地区	相坂地区	用途地域外	市外							
29.7%	13.5%	21.6%	52.7%							
通勤先	①・通勤先が市内→81.1% (市外→25.7%) ②稲生地区→47.3%、前谷地・下平、用途外共に→9.5% ③・利用交通手段→自家用車62.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・市内が通勤先は81.1%で、稲生地区、前谷地・下平地区が主である。市外通勤は25.7%である。 ・交通手段は6割強が自家用車利用である。 								
居住環境等の「良いところ」	①自然・歴史環境→193.2% ・緑豊かな山や自然→67.6% ・空気がきれい→44.6% ・親族や知人が多い→33.8% ②生活環境→150.0% ・日常の買い物が便利→31.1% ・下水道が整備されている→31.1% ・公園が整備されている→21.6% ③防犯・防災・救急→97.3% ・災害が少ない→51.4% ・治安が良い→33.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・自然・歴史環境や生活環境、防犯・防災・救急などに対する評価が高い。 ・自然・歴史環境では「緑豊かな山や自然」に対する評価が高い。 ・生活環境では「日常の買い物の利便性」「下水道整備」が評価されている。 ・防犯・防災・救急などでは、災害が少ない点が評価されている。これは他地区でも共通して評価されている点である。 ・これら指摘された良い点を今後も保全・維持しながら、まちづくりを進めていくことが必要である。 								
居住環境等の「良くないところ」	①交通→120.3% ・鉄道が不便である→50.0% ・バス交通が不便である→33.8% ・他都市への幹線道路が不便である→24.3% ②生活環境→109.5% ・日常の買い物が不便→25.7% ・公園、広場が整備されていない→17.6% ・高校などの学校が選びにくい→16.2% ③職場など→64.9% ・就職の機会が少ない→45.9% ・通勤のための交通が不便である→12.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・交通や生活環境、職場などに対する評価が低い。 ・交通では、鉄道・バス等の公共交通機関の不便さに不満が高い。他都市と連絡する広域幹線道路の不便さにも不満が高く、改善が課題となっている。 ・生活環境面では、日常の買い物の利便性が評価される反面、不便さも指摘され、サービス偏向の是正が課題である。公園、広場の未整備、高校など学校選択への不満があり、改善が課題となっている。 ・職場などに関しては、総合的な就業の機会拡大への取り組みが課題となる。 								
十和田市の将来都市像	①保健、福祉が充実した都市→50.0% ②賑わいのある商業が展開する都市→43.2% ③自然、歴史伝統を活かした観光都市→36.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・保健、福祉が充実し、商業地が賑わう、自然、歴史伝統を活かした観光都市の形成が、十和田市の将来都市像として考えられている。 								

③-2 稲生地区

項目	集計結果概要	評価
十和田市のまちづくりで重要なこと	①就業・産業など→59.5% ・市内に企業（就業の場）を誘致する→36.5% ・観光産業を育成する→9.5% ②生活関連施設など→47.3% ・病院など医療施設を整備する→17.6% ・高齢者の支援施設を充実する→14.9% ③買い物など→45.9% ・市の中心商業地を充実する→39.2%	<ul style="list-style-type: none"> 市全体のまちづくりに対しては、企業誘致などによる就業の場の確保と、地域資源を活かした観光産業の育成が重要と認識していることが伺える。 また医療、高齢者支援等の医療・社会福祉の充実が重要と認識していることが伺える。 さらに中心商業地の利便性の向上、あるいは活性化の重要性を認識していることも伺える。 今後、これら社会福祉施設と都市基盤施設等をバランス良く充実させると共に、中心市街地の活性化や観光産業の育成により就業の場の創出を図り、安全・安心、利便性の高い都市環境を形成していくことが課題である。
まちづくりに重要な地区	①アーケード商店街（稲生町周辺）→63.5% ②十和田駅周辺→63.5% ③官庁街通り及びその周辺→37.8%	<ul style="list-style-type: none"> 市の玄関口、顔となる十和田駅周辺地区の再構築、アーケード商店街の活性化、官庁街通りの特徴をまちづくりに活かすことが重要である。
居住地区の将来像	<ul style="list-style-type: none"> 安全、快適な住宅中心の地区→62.2% 保健・福祉が充実した地区→35.1% 賑わいのある商業が展開する地区→35.1% 	<ul style="list-style-type: none"> 安全で快適な、住みやすい住宅地形成を軸として、保健、福祉が充実し、賑わう商業地がある地区形成が、地区の将来像として考えられている。
居住地区のまちづくりで重要な視点	①生活関連施設など→54.1% ・病院など医療施設を整備する→12.2% ・公園、広場を整備する→10.8% ②防犯・防災など→39.2% ・防犯対策を充実する→17.6% ・地震や台風、大雨などの防災対策を充実する→10.8% ・交通安全対策、消防を充実する→10.8% ③就業・産業など→39.2% ・市内に企業（就業の場）を誘致する→14.9% ・観光産業を育成する→14.9%	<ul style="list-style-type: none"> 居住地区のまちづくりでは、公園・広場、病院等の都市基盤施設や医療施設拡充の重要性を認識していることが伺える。 また街路灯の設置などによる防犯対策、地震や台風などの防災対策、交通安全対策、消防の重要性を認識していることが伺える。 企業誘致などによる就業の場の確保と、地域資源を活かした観光産業の育成が重要と認識していることも伺える。 今後、これらの都市基盤施設や社会福祉施設をバランス良く充実させ、安全・安心、利便性の高い都市環境を形成していくことが課題である。
市民のまちづくり参画	①市民と市が協働で進める→40.5% ②市が中心、市民の合意を得て進める→29.7% ③市民が中心、市が必要な部分を支援→12.2%	<ul style="list-style-type: none"> 市民と市が協働で進めるとの意見は5割弱あり、今後のまちづくりにおける市民の活力に期待できそうである。 今後市民参加によるまちづくりが順調かつ活発に進められる上で基となる支援制度や体制づくりが課題である。

④-1 金崎地区

項目	集計結果概要	評価								
以前の居住地	①現在地に生来居住→12.1% ②金崎地区→13.5% ③金崎地区を除く市内→26.2% (稲生地区→5.7%、前谷地・下平、相坂地区共に→5.0%) ④青森県内→29.8% ⑤青森県外→16.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・当地区の継続的居住者の割合は、生来居住と地区内転居を合わせ、3割に満たない。(25.6%) ・転居者の従前居住地は、市外(46.1%)が市内(26.2%)を大きく上回る。 ・地区内転居の従前居住地は、稲生、前谷地・下平、相坂地区が上位を占める。 ・転入者が多くコミュニティ形成が課題になる。 								
最寄品の主な買い物場所	<table border="1"> <thead> <tr> <th>最寄店</th> <th>郊外大型店</th> <th>中心街店</th> <th>市外店</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>92.2%</td> <td>41.8%</td> <td>9.2%</td> <td>17.7%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・利用交通手段：自家用車→88.7% 	最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店	92.2%	41.8%	9.2%	17.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・食料品等最寄品は、最寄りの店舗利用が多く92.2%である。郊外大型店舗利用は41.8%、中心街の店舗利用は9.2%である。市外店利用は17.7%あり、中心街店の2倍弱の利用率である。 ・交通手段は9割弱が自家用車利用である。 ・車利用に対応した魅力ある店舗への転換あるいは導入など、中心市街地の再生が課題である。
最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店							
92.2%	41.8%	9.2%	17.7%							
買回品の主な買い物場所	<table border="1"> <thead> <tr> <th>最寄店</th> <th>郊外大型店</th> <th>中心街店</th> <th>市外店</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24.1%</td> <td>45.4%</td> <td>12.8%</td> <td>95.7%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・利用交通手段：自家用車→90.1% 	最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店	24.1%	45.4%	12.8%	95.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・服、ファッション品等買回品は、市外店利用が95.7%、郊外大型店利用が45.4%あるのに対し、中心街の店舗利用は12.8%と低調である。 ・交通手段はほとんどが自家用車利用である。 ・車利用に対応した魅力ある店舗への転換あるいは導入など、中心市街地の再生が課題である。
最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店							
24.1%	45.4%	12.8%	95.7%							
飲食に利用する場所	<table border="1"> <thead> <tr> <th>稲生地区</th> <th>相坂地区</th> <th>用途地域外</th> <th>市外</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>38.3%</td> <td>16.3%</td> <td>23.4%</td> <td>59.6%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・利用交通手段：自家用車→84.8% 	稲生地区	相坂地区	用途地域外	市外	38.3%	16.3%	23.4%	59.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食に利用する場所は、市外が59.6%、相坂地区や用途地域外等の郊外が39.7%である。中心街のある稲生地区は38.3%と郊外と同程度である。 ・車利用に対応した魅力ある店舗・業種への転換あるいは導入など、中心市街地の再生が課題である。
稲生地区	相坂地区	用途地域外	市外							
38.3%	16.3%	23.4%	59.6%							
通勤先	①通勤先が市内→81.6% (市外→34.7%) ②主な通勤地：金崎地区→29.1%、稲生地区→21.3%、 ③利用交通手段→自家用車61.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・市内が通勤先は81.6%で、金崎地区、稲生地区が主である。市外通勤は34.7%である。 ・交通手段は6割強が自家用車利用である。 								
居住環境等の「良いところ」	①自然・歴史環境など→200.0% ・緑豊かな山や自然→66.0% ・空気がきれい→48.2% ・親族や知人が多い→30.5% ②生活環境など→154.6% ・日常の買い物が便利→34.8% ・下水道が整備されている→28.4% ・公園が整備されている→22.7% ③防犯・防災・救急など→106.4% ・災害が少ない→63.8% ・治安が良い→25.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・自然・歴史環境や生活環境、防犯・防災・救急などに対する評価が高い。 ・自然・歴史環境では「緑豊かな山や自然」に対する評価が高い。 ・生活環境では「日常の買い物の利便性」「下水道整備」が評価されている。 ・防犯・防災・救急などでは、災害が少ない点が評価されている。これは他地区でも共通して評価されている点である。 ・これら指摘された良い点を今後も保全・維持しながら、まちづくりを進めていくことが必要である。 								
居住環境等の「良くないところ」	①交通など→159.6% ・鉄道が不便である→57.4% ・バス交通が不便である→48.2% ・自宅付近の道路が未整備→27.0% ・他都市への幹線道路が不便である→27.0% ②生活環境など→137.6% ・日常の買い物が不便→24.1% ・高校などの学校が選びにくい→21.3% ・公園、広場が未整備、図書館文化施設が少ない→19.1% ③職場など→70.2% ・就職の機会が少ない→51.8% ・勤め先が自宅から遠い→9.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・交通や生活環境、職場などに対する評価が低い。 ・交通では、鉄道・バス等の公共交通機関の不便さに不満が高い。他都市と連絡する広域幹線道路の不便さにも不満が高く、改善が課題となっている。 ・生活環境面では、日常の買い物の利便性が評価される反面、不便さも指摘され、サービス偏向の是正が課題である。公園、広場の未整備、高校など学校選択への不満があり、改善が課題になっている。 ・職場などに関しては、総合的な就業の機会拡大への取り組みが課題となる。 								
十和田市の将来都市像	①自然、歴史伝統を活かした観光都市→48.2% ②保健、福祉が充実した都市→41.1% ③農業を活かし産業が展開する都市→41.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・保健、福祉が充実し、農業を活かした産業が展開する、自然、歴史伝統を活かした観光都市の形成が十和田市の将来都市像として考えられている。 								

④-2 金崎地区

項目	集計結果概要	評価
十和田市のまちづくりで重要なこと	<p>①生活関連施設など→56.7%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院など医療施設を整備する→14.2% ・高齢者の支援施設を充実する→12.1% <p>②就業・産業など→52.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内に企業（就業の場）を誘致する→31.2% ・観光産業を育成する→16.3% <p>③買い物など→36.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の中心商業地を充実する→30.5% 	<ul style="list-style-type: none"> ・市全体のまちづくりに対しては、医療、高齢者支援等の医療・社会福祉施設の充実が重要と認識していることが伺える。 ・また生活関連施設の整備・拡充と同程度の比重で、企業誘致などによる就業の場の確保と、地域資源を活かした観光産業の育成が重要と認識していることも伺える。 ・さらに中心商業地の利便性向上あるいは活性化の重要性を認識していることも伺える。 ・今後、これら医療・社会福祉施設や都市基盤施設等をバランス良く充実させると共に、中心市街地の活性化や観光産業の育成により就業の場の創出を図り、安全・安心、利便性の高い都市環境を形成していくことが課題である。
まちづくりに重要な地区	<p>①アーケード商店街（稲生町周辺）→64.5%</p> <p>②十和田駅周辺→55.3%</p> <p>③官庁街通り及びその周辺→51.1%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市の玄関口、顔となる十和田駅周辺地区の再構築、アーケード商店街の活性化、官庁街通りの特徴をまちづくりに活かすことが重要である。
居住地区の将来像	<p>①安全、快適な住宅中心の地区→75.2%</p> <p>②保健・福祉が充実した地区→35.5%</p> <p>③自然が豊かな地区→27.7%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で快適な、住みやすい住宅地形成を軸として、保健、福祉が充実し、自然が豊かな地区形成が、地区の将来像として考えられている。
居住地区のまちづくりで重要な視点	<p>①生活関連施設など→66.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園、広場を整備する→18.4% ・病院など医療施設を整備する→13.5% <p>②防犯・防災など→37.6%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯対策を充実する→17.0% ・地震や台風、大雨などの防災対策を充実する→14.9% <p>③交通など→35.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活道路を整備する→20.6% ・バス交通を充実する→10.6% 	<ul style="list-style-type: none"> ・居住地区のまちづくりでは、公園・広場、生活道路、病院等の都市基盤施設や医療施設拡充の重要性を認識していることが伺える。 ・街路灯の設置などによる防犯対策、地震や台風などの防災対策の重要性を認識していることも伺える。 ・またバスなどの公共交通機関の利便性確保に対する重要性を認識していることも伺える。 ・今後、これらの都市基盤施設や医療施設をバランス良く充実させ、安全・安心、利便性の高い都市環境を形成していくことが課題である。
市民のまちづくり参画	<p>①市民と市が協働で進める→43.3%</p> <p>②市が中心、市民の合意を得て進める→36.2%</p> <p>③市民が中心、市が必要な部分を支援→12.1%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民と市が協働で進めるとの意見は5割弱あり、今後のまちづくりにおける市民の活力に期待できそうである。 ・今後市民参加によるまちづくりが順調かつ活発に進められる上で基となる支援制度や体制づくりが課題である。

⑤-1 西小稲地区

項目	集計結果概要	評価								
以前の居住地	<ul style="list-style-type: none"> ①現在地に生来居住→15.7% ②西小稲地区→11.1% ③西小稲地区を除く市内→42.6% (金崎地区→12.0%、相坂地区→9.3%) ④青森県内→19.4% ⑤青森県外→10.2% 	<ul style="list-style-type: none"> ・当地区の継続的居住者の割合は、生来居住と当地区内転居を合わせ 26.8%である。 ・転居者の従前居住地は、市内(42.6%)が市外(29.6%)を大きく上回る。 ・地区内転居の従前居住地は、金崎、相坂地区が上位を占める。 ・転入者が多くコミュニティ形成が課題になる。 								
最寄品の主な買い物場所	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td>最寄店</td> <td>郊外大型店</td> <td>中心街店</td> <td>市外店</td> </tr> <tr> <td>86.1%</td> <td>37.0%</td> <td>15.7%</td> <td>13.0%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・利用交通手段：自家用車→90.7% 	最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店	86.1%	37.0%	15.7%	13.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・食料品等最寄品は、最寄りの店舗利用が多く 86.1%である。郊外大型店舗利用は 37.0%、中心街の店舗利用は 15.7%である。市外店利用は 13.0%あり、中心街店と同程度である。 ・交通手段は9割が自家用車利用である。 ・車利用に対応した魅力ある店舗への転換あるいは導入など、中心市街地の再生が課題である。
最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店							
86.1%	37.0%	15.7%	13.0%							
買回品の主な買い物場所	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td>最寄店</td> <td>郊外大型店</td> <td>中心街店</td> <td>市外店</td> </tr> <tr> <td>15.7%</td> <td>57.4%</td> <td>13.0%</td> <td>109.3%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・利用交通手段：自家用車→96.3% 	最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店	15.7%	57.4%	13.0%	109.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・服、ファッション品等買回品は、市外店利用が109.3%、郊外大型店利用が57.4%あるのに対し、中心街店利用は13.0%と低調である。 ・交通手段はほとんどが自家用車利用である。 ・車利用に対応した魅力ある店舗への転換あるいは導入など、中心市街地の再生が課題である。
最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店							
15.7%	57.4%	13.0%	109.3%							
飲食に利用する場所	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td>稲生地区</td> <td>相坂地区</td> <td>用途地域外</td> <td>市外</td> </tr> <tr> <td>21.3%</td> <td>18.5%</td> <td>8.3%</td> <td>75.0%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・利用交通手段：自家用車→81.5% 	稲生地区	相坂地区	用途地域外	市外	21.3%	18.5%	8.3%	75.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食に利用する場所は、市外が75.0%、相坂地区や用途地域外等の郊外が26.8%である。中心街がある稲生地区は21.3%とやや利用率が低い。 ・車利用に対応した魅力ある店舗・業種への転換あるいは導入など、中心市街地の再生が課題である。
稲生地区	相坂地区	用途地域外	市外							
21.3%	18.5%	8.3%	75.0%							
通勤先	<ul style="list-style-type: none"> ①通勤先が市内→77.8% (市外→32.4%) ②主な通勤地：稲生地区→21.3%、西小稲地区→18.5%、金崎地区→16.7% ③利用交通手段：自家用車→78.7% 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内が通勤先は77.8%で、稲生地区、西小稲地区、金崎地区が主である。市外通勤は32.4%である。 ・交通手段は7割強が自家用車利用である。 								
居住環境等の「良いところ」	<ul style="list-style-type: none"> ①自然・歴史環境など→186.1% <ul style="list-style-type: none"> ・緑豊かな山や自然→53.7% ・空気がきれい→42.6% ・親族や知人が多い→41.7% ②生活環境など→180.6% <ul style="list-style-type: none"> ・日常の買い物が便利→38.9% ・下水道が整備されている→38.9% ・病院、医院が多い→24.1% ③防犯・防災・救急など→116.7% <ul style="list-style-type: none"> ・災害が少ない→69.4% ・治安が良い→29.6% 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然・歴史環境や生活環境、防犯・防災・救急などに対する評価が高い。 ・自然・歴史環境では「緑豊かな山や自然」「空気」「血縁・地縁」に対する評価が高い。 ・生活環境では「日常の買い物の利便性」「下水道整備」が評価されている。 ・防犯・防災・救急などでは、災害が少ない点が評価されている。これは他地区でも共通して評価されている点である。 ・これら指摘された良い点を今後も保全・維持しながら、まちづくりを進めていくことが必要である。 								
居住環境等の「良くないところ」	<ul style="list-style-type: none"> ①生活環境など→133.3% <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設がない→20.4% ・日常の買い物が不便、病院、医院が少ない→19.4% ・公園、広場が未整備→17.6% ・高校などの学校が選びにくい→17.6% ②交通など→129.6% <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道が不便である→55.6% ・バス交通が不便である→33.3% ・他都市への幹線道路が不便である→27.8% ③職場など→63.9% <ul style="list-style-type: none"> ・就職の機会が少ない→41.7% ・通勤のための交通が不便である→13.0% 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活環境や交通、職場などに対する評価が低い。 ・生活環境面では、運動施設の未整備や、日常の買い物の利便性が評価される反面、不便さが指摘されるなど、サービス偏向の是正が課題である。公園、広場の未整備、医療施設の整備水準への不満もあり、改善が課題になっている。 ・交通では、鉄道・バス等の公共交通機関の不便さに不満が高い。改善が課題となっている。 ・職場などに関しては、総合的な就業の機会拡大への取り組みが課題となる。 								
十和田市の将来都市像	<ul style="list-style-type: none"> ①保健、福祉が充実した都市→48.1% ②賑わいのある商業が展開する都市→41.7% ③自然、歴史伝統を活かした観光都市→41.7% 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健、福祉が充実し、農業を活かした産業が展開する、自然、歴史伝統を活かした観光都市の形成が十和田市の将来都市像として考えられている。 								

⑤-2 西小稲地区

項目	集計結果概要	評価
十和田市のまちづくりで重要なこと	<p>①生活関連施設など→69.4%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院など医療施設を整備する→23.1% ・高齢者の支援施設を充実する→17.6% <p>②就業・産業など→60.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内に企業（就業の場）を誘致する→37.0% ・観光産業を育成する→16.7% <p>③買い物など→43.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の中心商業地を充実する→33.3% 	<ul style="list-style-type: none"> ・市全体のまちづくりに対しては、医療、高齢者支援等の医療・社会福祉施設の充実が重要と認識していることが伺える。 ・また生活関連施設の整備・拡充と同程度の比重で、企業誘致などによる就業の場の確保と、市の資源を活かした観光産業の育成が重要と認識していることが伺える。 ・さらに中心商業地の利便性向上あるいは活性化の重要性を認識していることも伺える。 ・今後、これら社会福祉施設や都市基盤施設等をバランス良く充実させると共に、中心市街地の活性化や観光産業の育成により就業の場の創出を図り、安全・安心、利便性の高い都市環境を形成していくことが課題である。
まちづくりに重要な地区	<p>①アーケード商店街（稲生町周辺）→69.4%</p> <p>②十和田駅周辺→52.8%</p> <p>③官庁街通り及びその周辺→35.2%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市の玄関口、顔となる十和田駅周辺地区の再構築、アーケード商店街の活性化、官庁街通りの特徴をまちづくりに活かすことが重要である。
居住地区の将来像	<p>①安全、快適な住宅中心の地区→72.2%</p> <p>②保健・福祉が充実した地区→30.6%</p> <p>③自然が豊かな地区→25.9%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で快適な、住みやすい住宅地形成を軸として、保健、福祉が充実し、自然が豊かな地区形成が、地区の将来像として考えられている。
居住地区のまちづくりで重要な視点	<p>①生活関連施設など→84.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園、広場を整備する→25.0% ・病院など医療施設を整備する→20.4% ・高齢者の支援施設を充実する→13.0% <p>②防犯・防災など→38.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯対策を充実する→18.5% ・地震や台風、大雨などの防災対策を充実する→13.9% <p>③交通など→37.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活道路を整備する→15.7% ・バス交通を充実する→14.8% 	<ul style="list-style-type: none"> ・居住地区のまちづくりでは、公園・広場、病院、高齢者支援、生活道路等の都市基盤施設や医療・福祉施設整備の重要性を認識していることが伺える。 ・街路灯の設置などによる防犯対策、地震や台風などの防災対策の重要性を認識していることが伺える。 ・またバスなどの公共交通機関の利便性確保に対する重要性を認識していることも伺える。 ・今後、これらの都市基盤施設や医療施設をバランス良く充実させ、安全・安心、利便性の高い都市環境を形成していくことが課題である。
市民のまちづくり参画	<p>①市民と市が協働で進める→49.1%</p> <p>②市が中心、市民の合意を得て進める→21.3%</p> <p>③市民が中心、市が必要な部分を支援→15.7%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民と市が協働で進めるとの意見は5割強あり、今後のまちづくりにおける市民の活力に期待できそうである。 ・今後市民参加によるまちづくりが順調かつ活発に進められる上で基となる支援制度や体制づくりが課題である。

⑥-1 東小稲地区

項目	集計結果概要	評価								
以前の居住地	①現在地に生来居住→10.0% ②東小稲地区→6.7% ③東小稲地区を除く市内→63.3% (金崎地区、相坂地区共に→20.0%) ④青森県内→16.7% ⑤青森県外→3.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・当地区の継続的居住者の割合は、生来居住と当地区内転居を合わせ、2割に満たない。(16.7%) ・転居者の従前居住地は、市内(63.3%)が市外(20.0%)を大きく上回る。 ・地区内転居の従前居住地は、金崎、相坂地区が上位を占める。 ・転入者が多くコミュニティの形成が課題になる。 								
最寄品の主な買い物場所	<table border="1"> <thead> <tr> <th>最寄店</th> <th>郊外大型店</th> <th>中心街店</th> <th>市外店</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90.0%</td> <td>50.0%</td> <td>20.0%</td> <td>23.3%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・利用交通手段：自家用車→93.3% 	最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店	90.0%	50.0%	20.0%	23.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・食料品等最寄品は、最寄りの店舗利用が多く9割ある。郊外大型店舗利用は5割あるが、中心街の店舗利用は2割である。市外店利用は2割強あり、中心街店利用よりも多い。 ・交通手段はほとんどが自家用車利用である。 ・車利用に対応した魅力ある店舗への転換あるいは導入など、中心市街地の再生が課題である。
最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店							
90.0%	50.0%	20.0%	23.3%							
買回品の主な買い物場所	<table border="1"> <thead> <tr> <th>最寄店</th> <th>郊外大型店</th> <th>中心街店</th> <th>市外店</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>33.3%</td> <td>63.3%</td> <td>10.0%</td> <td>113.3%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・利用交通手段：自家用車→96.7% 	最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店	33.3%	63.3%	10.0%	113.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・服、ファッション品等買回品は、市外店利用が113.3%、郊外大型店利用が63.3%あるのに対し、中心街の店舗利用は10.0%と低い。 ・交通手段はほとんどが自家用車利用である。 ・車利用に対応した魅力ある店舗への転換あるいは導入など、中心市街地の再生が課題である。
最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店							
33.3%	63.3%	10.0%	113.3%							
飲食に利用する場所	<table border="1"> <thead> <tr> <th>稲生地区</th> <th>相坂地区</th> <th>用途地域外</th> <th>市外</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30.0%</td> <td>23.3%</td> <td>16.7%</td> <td>93.3%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・利用交通手段：自家用車→90.0% 	稲生地区	相坂地区	用途地域外	市外	30.0%	23.3%	16.7%	93.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食に利用する場所は、市外が93.3%、相坂地区や用途地域外等の郊外が40.0%である。中心街がある稲生地区は30.0%と利用率が低い。 ・車利用に対応した魅力ある店舗・業種への転換あるいは導入など、中心市街地の再生が課題である。
稲生地区	相坂地区	用途地域外	市外							
30.0%	23.3%	16.7%	93.3%							
通勤先	①通勤先が市内→73.3% (市外→56.6%) ②主な通勤地：稲生、金崎地区、用途地域外共に→20.0% ③利用交通手段：自家用車→86.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・市内が通勤先は73.3%で、稲生地区、金崎地区、用途地域外が主である。市外通勤は56.6%である。 ・交通手段は86.7%が自家用車利用である。 								
居住環境等の「良いところ」	①自然・歴史環境など→186.7% ・緑豊かな山や自然→63.3% ・空気がきれい→40.0% ・親族や知人が多い→26.7% ②生活環境など→180.0% ・日常の買い物が便利→50.0% ・下水道が整備されている→36.7% ・病院、医院が多い→30.0% ③防犯・防災・救急など→140.0% ・災害が少ない→86.7% ・治安が良い→30.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・自然・歴史環境や生活環境、防犯・防災・救急などに対する評価が高い。 ・自然・歴史環境では「緑豊かな山や自然」「空気」「血縁・地縁」に対する評価が高い。 ・生活環境では「日常の買い物の利便性」「下水道整備」「医療施設の充実」が評価されている。 ・防犯・防災・救急などでは、災害が少ない点が評価されている。これは他地区でも共通して評価されている点である。 ・これら指摘された良い点を今後も保全・維持しながら、まちづくりを進めていくことが必要である。 								
居住環境等の「良くないところ」	①生活環境など→133.3% ・高校などの学校が選びにくい→26.7% ・図書館、文化施設が少ない→23.3% ・病院、医院が少ない→20.0% ②交通など→126.7% ・鉄道が不便である→56.7% ・バス交通が不便である→40.0% ・他都市への幹線道路が不便である→16.7% ③職場など→83.3% ・就職の機会が少ない→50.0% ・勤め先が自宅から遠い→20.0% ・通勤のための交通が不便である→13.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・生活環境や交通、職場などに対する評価が低い。 ・生活環境面では、高校など学校選択への不満、図書館・文化施設のサービス水準の低さに対する不満、医療施設の整備水準への不満が高く、改善が課題になっている。 ・交通では、鉄道・バス等の公共交通機関の不便さに不満が高い。改善が課題となっている。 ・職場などに関しては、総合的な就業の機会拡大への取り組みが課題となる。 								
十和田市の将来都市像	①農業を活かし産業が展開する都市→46.7% ②賑わいのある商業が展開する都市→40.0% ③保健、福祉が充実した都市→33.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・保健、福祉が充実し、賑わう商業地がある、農業を活かした産業が展開する都市の形成が十和田市の将来都市像として考えられている。 								

⑥-2 東小稲地区

項目	集計結果概要	評価
十和田市のまちづくりで重要なこと	<p>①生活関連施設など→80.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院など医療施設を整備する→33.3% ・高齢者の支援施設を充実する→20.0% ・幼児・学童の保育施設を充実する→13.3% <p>②就業・産業など→40.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内に企業（就業の場）を誘致する→33.3% <p>③買い物など→40.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の中心商業地を充実する→26.7% ・幹線道路沿道の商業地を形成する→13.3% 	<ul style="list-style-type: none"> ・市全体のまちづくりに対しては、医療、高齢者支援、保育等といった医療・社会福祉施設の充実が重要と認識していることが伺える。 ・また企業誘致による就業の場の確保と、中心商業地の利便性向上あるいは活性化、幹線道路沿道の商業地形成の重要性を認識していることも伺える。 ・今後、これら社会福祉施設や都市基盤施設等をバランス良く充実させると共に、中心市街地の活性化による就業の場の創出を図り、安全・安心、利便性の高い都市環境を形成していくことが課題である。
まちづくりに重要な地区	<p>①アーケード商店街（稲生町周辺）→83.3%</p> <p>②十和田駅周辺→53.3%</p> <p>③官庁街通り及びその周辺→33.3%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市の玄関口、顔となる十和田駅周辺地区の再構築、アーケード商店街の活性化、官庁街通りの特徴をまちづくりに活かすことが重要である。
居住地区の将来像	<p>①安全、快適な住宅中心の地区→46.7%</p> <p>②保健・福祉が充実した地区→33.3%</p> <p>③自然が豊かな地区→30.0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で快適な、住みやすい住宅地形成を軸として、保健、福祉が充実し、自然が豊かな地区形成が、地区の将来像として考えられている。
居住地区のまちづくりで重要な視点	<p>①生活関連施設など→76.7%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院など医療施設を整備する→26.7% ・公園、広場を整備する→16.7% ・下水道を整備する→10.0% ・高齢者の支援施設を充実する→10.0% <p>②交通など→30.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活道路を整備する→16.7% ・バス交通を充実する→13.3% <p>③就業・産業など→33.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内に企業（就業の場）を誘致する→26.7% 	<ul style="list-style-type: none"> ・居住地区のまちづくりでは、病院、公園・広場、下水道、高齢者支援、生活道路等の都市基盤施設や医療・福祉施設整備の重要性を認識していることが伺える。 ・またバスなどの公共交通機関の利便性確保や、企業誘致による雇用機会の確保の重要性を認識していることも伺える。 ・今後、これらの都市基盤施設や医療施設をバランス良く充実させ、安全・安心、利便性の高い都市環境を形成していくことが課題である。
市民のまちづくり参画	<p>①市民と市が協働で進める→36.7%</p> <p>②市が中心、市民の合意を得て進める→33.3%</p> <p>③市民が中心、市が必要な部分を支援→20.0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「市民と市が協働」と「市が中心、市民の合意を得る」が拮抗しており、今後のまちづくりに対する市民への啓蒙活動が課題である。 ・今後市民参加によるまちづくりが順調かつ活発に進められる上で基となる支援制度や体制づくりが課題である。

⑦-1 相坂地区

項目	集計結果概要	評価								
以前の居住地	①現在地に生来居住→17.4% ②相坂地区→21.7% ③相坂地区を除く市内→26.1% (前谷地・下平、金崎、西小稲、東小稲、用途外共に→4.3%) ④青森県内→13.0% ⑤青森県外→21.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・当地区の継続的居住者の割合は、生来居住と当地区内転居を合わせ、4割弱になる。(39.1%) ・転居者の以前の居住地は、市外(34.7%)が市内(26.1%)を大きく上回る。 ・地区内転居の従前居住地は、金崎、相坂地区が上位を占める。 ・転入者が多くコミュニティ形成が課題になる。 								
最寄品の主な買い物場所	<table border="1"> <thead> <tr> <th>最寄店</th> <th>郊外大型店</th> <th>中心街店</th> <th>市外店</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>73.9%</td> <td>47.8%</td> <td>8.7%</td> <td>8.7%</td> </tr> </tbody> </table> ・交通手段：自家用車→87.0%	最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店	73.9%	47.8%	8.7%	8.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・食料品等最寄品は、最寄りの店舗利用が多く7強ある。郊外大型店舗利用は5割弱あるが、中心街の店舗利用は1割に満たない。市外店利用と中心街店利用が同じ率である。 ・交通手段は87.0%が自家用車利用である。 ・車利用に対応した魅力ある店舗への転換あるいは導入など、中心市街地の再生が課題である。
最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店							
73.9%	47.8%	8.7%	8.7%							
買回品の主な買い物場所	<table border="1"> <thead> <tr> <th>最寄店</th> <th>郊外大型店</th> <th>中心街店</th> <th>市外店</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>17.4%</td> <td>56.5%</td> <td>13.0%</td> <td>113.0%</td> </tr> </tbody> </table> ・利用交通手段：自家用車→87.0%	最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店	17.4%	56.5%	13.0%	113.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・服、ファッション品等買回品は、市外店利用が113.0%、郊外大型店利用が56.5%あるのに対し、中心街の店舗利用は13.0%と低い。 ・交通手段はほとんどが自家用車利用である。 ・車利用に対応した魅力ある店舗への転換あるいは導入など、中心市街地の再生が課題である。
最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店							
17.4%	56.5%	13.0%	113.0%							
飲食に利用する場所	<table border="1"> <thead> <tr> <th>稲生地区</th> <th>相坂地区</th> <th>用途地域外</th> <th>市外</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26.1%</td> <td>17.4%</td> <td>8.7%</td> <td>69.6%</td> </tr> </tbody> </table> ・利用交通手段：自家用車→69.6%	稲生地区	相坂地区	用途地域外	市外	26.1%	17.4%	8.7%	69.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食に利用する場所は、市外が69.6%、相坂地区や用途地域外等の郊外が26.1%である。中心街がある稲生地区は26.1%で郊外と同程度である。 ・車利用に対応した魅力ある店舗・業種への転換あるいは導入など、中心市街地の再生が課題である。
稲生地区	相坂地区	用途地域外	市外							
26.1%	17.4%	8.7%	69.6%							
通勤先	①通勤先が市内→82.6% (市外→4.3%) ②主な通勤地：相坂地区→30.4%、稲生地区→13.0% ③利用交通手段：自家用車→73.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・市内が通勤先は82.6%で、相坂地区、稲生地区が主である。市外通勤は4.3%と低い。 ・交通手段は7割強が自家用車利用である。 								
居住環境等の「良いところ」	①自然・歴史環境など→226.1% ・緑豊かな山や自然→73.9% ・空気がきれい→52.2% ・親族や知人が多い→39.1% ②生活環境など→147.8% ・日常の買い物が便利→56.5% ・下水道が整備されている→34.8% ・病院、医院が多い→26.1% ③防犯・防災・救急など→91.3% ・災害が少ない→60.9% ・治安が良い→17.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・自然・歴史環境や生活環境、防犯・防災・救急などに対する評価が高い。 ・自然・歴史環境では「緑豊かな山や自然」「空気」「血縁・地縁」に対する評価が高い。 ・生活環境では「日常の買い物の利便性」「下水道整備」「医療施設の充実」が評価されている。 ・防犯・防災・救急などでは、災害が少ない点が評価されている。これは他地区でも共通して評価されている点である。 ・これら指摘された良い点を今後も保全・維持しながら、まちづくりを進めていくことが必要である。 								
居住環境等の「良くないところ」	①交通など→95.7% ・鉄道が不便である→39.1% ・バス交通が不便である→39.1% ・自宅付近の道路が整備されていない→13.0% ②生活環境など→73.9% ・高校などの学校が選びにくい→13.0% ・公園、広場が整備されていない→13.0% ・下水道が整備されていない→13.0% ③職場など→65.2% ・就職の機会が少ない→47.8% ・通勤のための交通が不便である→17.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・交通や生活環境、職場などに対する評価が低い。 ・交通では、鉄道・バス等の公共交通機関の不便さに不満が高い。また低い生活道路の整備水準にも不満がある。これらの改善が課題となっている。 ・生活環境面では、高校など学校選択への不満、低い整備水準の公園・広場に対する不満、下水道未整備への不満があり、これらの改善が課題になっている。 ・職場などに関しては、総合的な就業の機会拡大への取り組みが課題となる。 								
十和田市の将来都市像	①保健、福祉が充実した都市→43.5% ②自然、歴史伝統を活かした観光都市→43.5% ③農業を活かし産業が展開する都市→43.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・保健、福祉が充実し、農業を活かした産業が展開する自然、歴史伝統を活かした観光都市の形成が十和田市の将来都市像として考えられている。 								

⑦-2 相坂地区

項目	集計結果概要	評価
十和田市のまちづくりで重要なこと	<p>①就業・産業など→60.9%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内に企業（就業の場）を誘致する→52.2% <p>②買い物など→47.8%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の中心商業地を充実する→43.5% <p>③生活関連施設など→43.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院など医療施設を整備する→21.7% ・下水道を整備する→17.4% ・高齢者の支援施設を充実する→13.0% 	<ul style="list-style-type: none"> ・市全体のまちづくりに対しては、企業誘致による就業の場の確保と、中心商業地の利便性向上あるいは活性化の重要性を認識していることが伺える。 ・また医療、高齢者支援といった医療・社会福祉施設の充実や下水道の整備が重要と認識していることも伺える。 ・今後、これら社会福祉施設や下水道などの都市基盤をバランス良く充実させると共に、中心市街地の活性化による就業の場の創出を図り、安全・安心、利便性の高い都市環境を形成していくことが課題である。
まちづくりに重要な地区	<p>①アーケード商店街（稲生町周辺）→65.2%</p> <p>②十和田駅周辺→52.2%</p> <p>③官庁街通り及びその周辺→39.1%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市の玄関口、顔となる十和田駅周辺地区の再構築、アーケード商店街の活性化、官庁街通りの特徴をまちづくりに活かすことが重要である。
居住地区の将来像	<p>①農業を活かし産業が展開する地区→56.5%</p> <p>②安全、快適な住宅中心の地区→43.5%</p> <p>③賑わいのある商業が展開する地区→34.8%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で快適な、住みやすい住宅地形成を軸として、賑わう商業地があり、農業を活かし産業が展開する地区形成が、地区の将来像として考えられている。
居住地区のまちづくりで重要な視点	<p>①生活関連施設など→52.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下水道を整備する→13.0% ・公園、広場を整備する→13.0% ・病院など医療施設を整備する→13.0% <p>②交通など→39.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス交通を充実する→17.4% ・生活道路を整備する→17.4% <p>③就業・産業など→34.8%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内に企業（就業の場）を誘致する→30.4% 	<ul style="list-style-type: none"> ・居住地区のまちづくりでは、下水道、公園・広場、病院、生活道路等の都市基盤施設や医療・福祉施設整備の重要性を認識していることが伺える。 ・またバスなどの公共交通機関の利便性確保や、企業誘致による雇用機会の確保の重要性を認識していることも伺える。 ・今後、これらの都市基盤施設や医療施設をバランス良く充実させ、安全・安心、利便性の高い都市環境を形成していくことが課題である。
市民のまちづくり参画	<p>①市民と市が協働で進める→52.2%</p> <p>②市が中心、市民の合意を得て進める→21.7%</p> <p>③市民が中心、市が必要な部分を支援→17.4%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民と市が協働で進めるとの意見は5割強あり、今後のまちづくりにおける市民の活力に期待が持てそうである。 ・今後順調かつ活発なまちづくりに対する市民参加を支える支援制度や体制づくりが課題である。

⑧-1 旧十和田市用途地域外地区

項目	集計結果概要	評価								
以前の居住地	①現在地に生来居住→21.0% ②用途地域外→6.6% ③用途地域外を除く市内→41.3% (相坂地区→12.5%、金崎地区→7.9%) ④青森県内→21.6% ⑤青森県外→8.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・当地区の継続的居住者の割合は、生来居住と当地区内転居を合わせ、3割弱になる。(27.6%) ・転居者の以前の居住地は、市内(41.3%)が市外(29.8%)を上回る。 ・地区内転居の従前居住地は、相坂、金崎地区が上位を占める。 ・転入者が多くるコミュニティ形成が課題になる。 								
最寄品の主な買い物場所	<table border="1"> <thead> <tr> <th>最寄店</th> <th>郊外大型店</th> <th>中心街店</th> <th>市外店</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>82.3%</td> <td>45.9%</td> <td>16.7%</td> <td>16.1%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・利用交通手段：自家用車→93.8% 	最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店	82.3%	45.9%	16.7%	16.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・食料品等最寄品は、最寄りの店舗利用が多く82.3%である。郊外大型店舗利用は49.5%あるが、中心街の店舗利用は16.7%で、市外店利用16.1%と同程度である。 ・交通手段はほとんどが自家用車利用である。 ・車利用に対応した魅力ある店舗への転換あるいは導入など、中心市街地の再生が課題である。
最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店							
82.3%	45.9%	16.7%	16.1%							
買回品の主な買い物場所	<table border="1"> <thead> <tr> <th>最寄店</th> <th>郊外大型店</th> <th>中心街店</th> <th>市外店</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25.9%</td> <td>58.4%</td> <td>10.8%</td> <td>81.3%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・利用交通手段：自家用車→95.1% 	最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店	25.9%	58.4%	10.8%	81.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・服、ファッション品等買回品は、市外店利用が81.3%、郊外大型店利用が58.4%あるのに対し、中心街の店舗利用は10.8%とかなり低い。 ・交通手段はほとんどが自家用車利用である。 ・車利用に対応した魅力ある店舗への転換あるいは導入など、中心市街地の再生が課題である。
最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店							
25.9%	58.4%	10.8%	81.3%							
飲食に利用する場所	<table border="1"> <thead> <tr> <th>稲生地区</th> <th>相坂地区</th> <th>用途地域外</th> <th>市外</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24.9%</td> <td>16.1%</td> <td>19.7%</td> <td>67.2%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・利用交通手段：自家用車→88.5% 	稲生地区	相坂地区	用途地域外	市外	24.9%	16.1%	19.7%	67.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食に利用する場所は、市外が67.2%、相坂地区や用途地域外等の郊外が35.8%あるのに対し、中心街がある稲生地区は24.9%にとどまっている。 ・車利用に対応した魅力ある店舗・業種への転換あるいは導入など、中心市街地の再生が課題である。
稲生地区	相坂地区	用途地域外	市外							
24.9%	16.1%	19.7%	67.2%							
通勤先	①通勤先が市内→72.5% (市外→35.8%) ②主な通勤地：稲生地区→19.0%、金崎地区→13.4% ③利用交通手段：自家用車→83.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・通勤先が市内は72.5%で、相坂地区、金崎地区が主である。市外通勤は35.8%と低い。 ・交通手段は8割強が自家用車利用である。 								
居住環境等の「良いところ」	①自然・歴史環境など→197.0% ・緑豊かな山や自然→60.3% ・空気がきれい→41.6% ・農地が多く、景色や環境が良い→33.1% ②生活環境など→120.0% ・日常の買い物が便利→39.3% ・病院、医院が多い→21.6% ・下水道が整備されている→14.1% ③防犯・防災・救急など→110.5% ・災害が少ない→68.2% ・治安が良い→27.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・自然・歴史環境や生活環境、防犯・防災・救急などに対する評価が高い。 ・自然・歴史環境では「緑豊かな山や自然」「空気」「景観・環境」に対する評価が高い。 ・生活環境では「日常の買い物の利便性」「医療施設の充実」「下水道整備」が評価されている。 ・防犯・防災・救急などでは、災害が少ない点が評価されている。これは他地区でも共通して評価されている点である。 ・これら指摘された良い点を今後も保全・維持しながら、まちづくりを進めていくことが必要である。 								
居住環境等の「良くないところ」	①生活環境や交通、職場など→131.8% ・下水道が整備されていない→20.3% ・スポーツ施設がない→20.3% ・図書館や文化施設が少ない→17.7% ・公園、広場が整備されていない→17.4% ②交通など→121.0% ・バス交通が不便である→44.6% ・鉄道が不便である→37.4% ・自宅付近の道路が整備されていない→20.3% ③職場など→77.0% ・就職の機会が少ない→49.8% ・勤め先が自宅から遠い→13.8% ・通勤のための交通が不便である→13.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・生活環境や交通、職場などに対する評価が低い。 ・生活環境面では、下水道未整備への不満、運動施設や公園・広場の低い整備水準に対する不満、図書館や文化施設の低い整備水準への不満があり、これらの改善が課題となっている。 ・交通では、バス・鉄道等の公共交通機関の不便さに不満が高い。また低い生活道路の整備水準にも不満がある。これらの改善が課題となっている。 ・職場などに関しては、総合的な就業の機会拡大への取り組みが課題となる。 								
十和田市の将来都市像	①農業を活かし産業が展開する都市→51.5% ②保健、福祉が充実した都市→48.2% ③賑わいのある商業が展開する都市→35.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・保健、福祉が充実し、賑わう商業地がある農業を活かした産業が展開する都市の形成が十和田市の将来都市像として考えられている。 								

⑧-2 旧十和田市用途地域外地区

項目	集計結果概要	評価
十和田市のまちづくりで重要なこと	<p>①生活関連施設など→57.7%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の支援施設を充実する→21.0% ・病院など医療施設を整備する→14.4% <p>②就業・産業など→51.8%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内に企業（就業の場）を誘致する→30.2% ・観光産業を育成する→11.5% <p>③買い物など→32.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の中心商業地を充実する→24.9% 	<ul style="list-style-type: none"> ・市全体のまちづくりに対しては、医療、高齢者支援といった医療・社会福祉施設の充実が重要と認識していることが伺える。 ・また企業誘致による就業の場の確保と、市の資源を活かした観光産業の育成による就業の機会の確保が重要と認識していることが伺える。 ・中心商業地の利便性向上あるいは活性化の重要性も認識していることが伺える。 ・今後、これら社会福祉施設と都市基盤施設をバランス良く充実させると共に、中心市街地の活性化による就業の場の創出を図りながら、安全・安心、利便性の高い都市環境を形成していくことが課題である。
まちづくりに重要な地区	<p>①十和田駅周辺→70.2%</p> <p>②アーケード商店街（稲生町周辺）→60.7%</p> <p>③官庁街通り及びその周辺→34.4%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アーケード商店街の活性化、市の玄関口、顔となる十和田駅周辺地区の再構築、官庁街通りの特徴をまちづくりに活かすことが重要である。
居住地区の将来像	<p>①安全、快適な住宅中心の地区→46.9%</p> <p>②農業を活かし産業が展開する地区→38.4%</p> <p>③自然が豊かな地区→35.1%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で快適な、住みやすい住宅地形成を軸として、農業を活かし産業が展開する自然豊かな地区形成が、地区の将来将来像として考えられている。
居住地区のまちづくりで重要な視点	<p>①生活関連施設など→69.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の支援施設を充実する→13.1% ・下水道を整備する→12.5% ・公園・広場を整備する→12.1% ・病院など医療施設を整備する→12.1% <p>②交通など→33.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活道路を整備する→16.4% ・バス交通を充実する→13.4% <p>③農業など→26.9%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農村環境を充実する→11.8% 	<ul style="list-style-type: none"> ・居住地区のまちづくりでは、高齢者支援、下水道、公園・広場、病院、生活道路等の都市基盤施設や医療・福祉施設整備の重要性を認識していることが伺える。 ・バスなどの公共交通機関の利便性確保の重要性を認識していることも伺える。 ・また農業生産と農村生活の向上を図る農村環境の充実を重要視していることも伺える。 ・今後、これらの都市基盤施設や医療・福祉施設をバランス良く充実させ、安全・安心、利便性の高い農業生産環境と共生する都市環境を形成していくことが課題である。
市民のまちづくり参画	<p>①市民と市が協働で進める→47.9%</p> <p>②市が中心、市民の合意を得て進める→25.2%</p> <p>③市民が中心、市が必要な部分を支援→15.7%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民と市が協働で進めるとの意見は5割強あり、今後のまちづくりにおける市民の活力に期待が持てそうである。 ・今後順調かつ活発なまちづくりに対する市民参加を支える支援制度や体制づくりが課題である。

⑨-1 旧十和田湖町地区

項目	集計結果概要	評価								
以前の居住地	①現在地に生来居住→40.0% ②旧十和田湖町地区→20.0% ③旧十和田湖町地区を除く市内→16.0% (相坂地区→10.0%) ④青森県内→10.0% ⑤青森県外→10.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・当地区の継続的居住者の割合は、生来居住と当地区内転居を合わせ、6割になる。(60.0%) ・転居者の以前の居住地は、市外(20.0%)市内を(16.0%)を上回る。 ・地区内転居の従前居住地は、相坂地区が主である。 ・転入者は少ないがコミュニティ維持が課題になる。 								
最寄品の主な買い物場所	<table border="1"> <thead> <tr> <th>最寄店</th> <th>郊外大型店</th> <th>中心街店</th> <th>市外店</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>68.0%</td> <td>54.0%</td> <td>24.0%</td> <td>4.0%</td> </tr> </tbody> </table> ・利用交通手段：自家用車→98.0%	最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店	68.0%	54.0%	24.0%	4.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・食料品等最寄品は、最寄りの店舗利用が多く68.0%である。郊外大型店舗利用は54.0%あり、中心街店利用は24.0%である。市外店利用は4.0%と低い。 ・交通手段はほとんどが自家用車利用である。 ・車利用に対応した魅力ある店舗への転換あるいは導入など、中心市街地の再生が課題である。
最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店							
68.0%	54.0%	24.0%	4.0%							
買回品の主な買い物場所	<table border="1"> <thead> <tr> <th>最寄店</th> <th>郊外大型店</th> <th>中心街店</th> <th>市外店</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26.0%</td> <td>62.0%</td> <td>20.0%</td> <td>64.0%</td> </tr> </tbody> </table> ・利用交通手段：自家用車→98.0%	最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店	26.0%	62.0%	20.0%	64.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・服、ファッション品等買回品は、市外店利用が64.0%、郊外大型店利用が62.0%ある。中心街店利用は20.0%である。 ・交通手段はほとんどが自家用車利用である。 ・車利用に対応した魅力ある店舗への転換あるいは導入など、中心市街地の再生が課題である。
最寄店	郊外大型店	中心街店	市外店							
26.0%	62.0%	20.0%	64.0%							
飲食に利用する場所	<table border="1"> <thead> <tr> <th>稲生地区</th> <th>相坂地区</th> <th>用途地域外</th> <th>市外</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24.0%</td> <td>4.0%</td> <td>12.0%</td> <td>36.0%</td> </tr> </tbody> </table> ・利用交通手段：自家用車→92.0%	稲生地区	相坂地区	用途地域外	市外	24.0%	4.0%	12.0%	36.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食に利用する場所は、市外が36.0%、相坂地区や用途地域外等の郊外が16.0%である。中心街がある稲生地区は24.0%で、他地区に比べ率が高い。 ・車利用に対応した魅力ある店舗・業種への転換あるいは導入など、中心市街地の再生が課題である。
稲生地区	相坂地区	用途地域外	市外							
24.0%	4.0%	12.0%	36.0%							
通勤先	①通勤先が市内→74.0% (市外→14.0%) ②主な通勤地：用途地域外→14.0%、西小稲地区→12.0% ③利用交通手段：自家用車→76.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・通勤先が市内は74.0%で、用途地域外、西小稲地区が主である。市外通勤は14.0%と低い。 ・交通手段は8割強が自家用車利用である。 								
居住環境等の「良いところ」	①自然・歴史環境など→210.0% ・緑豊かな山や自然がある→74.0% ・空気がきれい→44.0% ・農地が多く、景色や環境が良い→30.0% ②生活環境など→104.0% ・下水道が整備されている→32.0% ・日常の買い物便利→16.0% ・病院、医院が多い→16.0% ③防犯・防災・救急など→100.0% ・災害が少ない→46.0% ・治安が良い→42.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・自然・歴史環境や生活環境、防犯・防災・救急などに対する評価が高い。 ・自然・歴史環境では「緑豊かな山や自然」「空気」「景観・環境」に対する評価が高い。 ・生活環境では「下水道整備」「日常の買い物の利便性」「医療施設の充実」が評価されている。 ・防犯・防災・救急などでは、災害が少ない点が評価されている。これは他地区でも共通して評価されている点である。 ・これら指摘された良い点を今後も保全・維持しながら、まちづくりを進めていくことが必要である。 								
居住環境等の「良くないところ」	①生活環境など→180.0% ・日常の買い物が不便→38.0% ・スポーツ施設がない→32.0% ・病院、医院が少ない→26.0% ②交通など→152.0% ・バス交通が不便である→52.0% ・鉄道が不便である→36.0% ・自宅付近の道路が未整備→34.0% ③職場など→102.0% ・就職の機会が少ない→52.0% ・通勤のための交通が不便である→26.0% ・勤め先が自宅から遠い→24.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・生活環境や交通、職場などに対する評価が低い。 ・生活環境面では、運動施設の未整備や、日常の買い物の利便性が評価される反面、不便さが指摘され、サービス偏向の是正が課題である。医療施設の整備水準への不満もあり、改善が課題になっている。 ・交通では、バス・鉄道等の公共交通機関の不便さに不満が高い。また生活道路の低い整備水準にも不満がある。これらの改善が課題となっている。 ・職場などに関しては、総合的な就業の機会拡大への取り組みが課題となる。 								
十和田市の将来都市像	①農業を活かし産業が展開する都市→52.0% ②自然、歴史伝統を活かした観光都市→50.0% ③保健、福祉が充実した都市→44.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・自然、歴史伝統を活かし、保健、福祉が充実する、農業を活かした産業が展開する都市の形成が十和田市の将来都市像として考えられている。 								

⑨-2 旧十和田湖町地区

項目	集計結果概要	評価
十和田市のまちづくりで重要なこと	<p>①生活関連施設など→68.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の支援施設を充実する→20.0% ・病院など医療施設を整備する→18.0% ・幼児・学童の保育施設を充実する→16.0% <p>②就業・産業など→42.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内に企業（就業の場）を誘致する→32.0% <p>③買い物など→34.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧十和田湖町の中心地を活性化する→20.0% ・市の中心商業地を充実する→10.0% 	<ul style="list-style-type: none"> ・市全体のまちづくりに対しては、医療、高齢者支援保育といった医療・社会福祉施設の充実が重要と認識していることが伺える。 ・また企業誘致による就業の場の確保が重要と認識していることが伺える。 ・買い物等では、旧十和田湖町の中心地区の活性化を図ると共に、市の中心商業地の利便性向上あるいは活性化の重要性も認識していることが伺える。 ・今後、これら社会福祉施設との都市基盤施設をバランス良く充実させると共に、地区の生活拠点の形成と拡充を図りながら、市の中心市街地の活性化を図り、安全・安心、利便性の高い都市環境を形成していくことが課題である。
まちづくりに重要な地区	<p>①アーケード商店街（稲生町周辺）→54.0%</p> <p>②奥入瀬・十和田湖地区→50.0%</p> <p>③十和田駅周辺→38.0%</p> <p>④旧十和田湖町の中心地→38.0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アーケード商店街の活性化、市の玄関口、顔となる十和田駅周辺地区の再構築によるまちづくりが重要である。 ・奥入瀬・十和田湖地区の観光機能強化、地区拠点としての旧十和田湖町中心地の機能強化が課題。
居住地区の将来像	<p>①農業を活かし産業が展開する地区→50.0%</p> <p>②自然が豊かな地区→38.0%</p> <p>③保健・福祉が充実した地区→34.0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然を守り、保健、福祉が充実する、農業を活かした産業が展開する地区形成が、地区の将来像として考えられている。
居住地区のまちづくりで重要な視点	<p>①生活関連施設など→50.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の支援施設を充実する→16.0% ・病院など医療施設を整備する→10.0% ・幼児・学童の保育施設を充実する→10.0% <p>②就業・産業など→42.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内に企業（就業の場）を誘致する→20.0% ・観光産業を育成する→16.0% <p>③農業など→42.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農村環境を充実する→22.0% ・農地、農道等の農業基盤を整備する→10.0% ・農地を保全する→10.0% 	<ul style="list-style-type: none"> ・居住地区のまちづくりでは、高齢者支援、病院、保育等の都市基盤施設や医療・福祉施設整備の重要性を認識していることが伺える。 ・また農業生産と農村生活の向上を図る農村環境の充実を重要視していることも伺える。 ・今後、これらの都市基盤施設や医療・福祉施設をバランス良く充実させ、安全・安心、利便性の高い農業生産環境と共生する都市環境を形成していくことが課題である。
市民のまちづくり参画	<p>①市民と市が協働で進める→38.0%</p> <p>②市が中心、市民の合意を得て進める→28.0%</p> <p>③市民が中心、市が必要な部分を支援→20.0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民と市が協働で進めるとの意見は5割強あり、今後のまちづくりにおける市民の活力に期待が持てそうである。 ・今後市民参加によるまちづくりが順調かつ活発に進められる上で基となる支援制度や体制づくりが課題である。

(5) 問題点と課題の整理

住民意向調査結果を踏まえ、まちづくりにおける問題点を抽出し、それに対応する主要課題を整理します。

